

日本スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会

女子組手第2部で初出場初優勝した 遠田めぐみさんにお話をお聞きしました

ー遠田さんが空手を始めたのはいつごろですかー

高校1年生から、静岡県の空手道場で3年生まで稽古しました。そのときは1級までとったのですが、その後スタントマンを目指し上京し、2年後静岡に戻って今の主人と出会い結婚し、山形に来ました。

また空手をやろうと思ったのは30歳のときです。長男をつれて一緒にやろうと思ったのですが、長男は“やりたくない”というので、まずは私が稽古をはじめました。その後、娘（ゆかりさん・八幡中学校3年）が4歳になって、地元の至道館（和道会・佐藤英俊先生）と一緒に入門しました。

ーマスターズに初出場で初優勝、本当に素晴らしい成績でしたねー

ありがとうございます。自分が自分でないような、“夢のような”感じでした。

1試合1試合の集中力を高めるだけで精一杯で、1・2回戦で体力的には限界で、（ひざに古傷をもっていたため）体調もよくなかったのですが。

ー決勝まではどうやって過ごされましたかー

決勝までは5試合ありました。5試合こなすのは大変で、試合の待ち時間が非常に長かったです。まずは体調管理を心がけ、脱水症状にならないように水分補給に努め、余裕があれば対戦相手を見ながらマッサージやストレッチをしていました。

ー対戦相手に結構プレッシャーをかけていますねー

監督の菊地先生が対戦相手の選手に「次、ウチの選手とよろしくね」と声をかけながら相手選手を分析してくれるのです。そのあと「蹴りに気をつけて」など的確なアドバイスをしてくださるので助かりました。そしてその選手の近くでマッサージやストレッチをしていました。

ーご自身はプレッシャーはなかったのですかー

大会中はリラックスできるように心がけていました。自分の世界に入っていました。

実はベスト8が目標だったので、2回戦が終わった段階で体力的には限界でしたし、1・2回戦は無我夢中な感じで、同じ山形県の選手の試合を見る余裕もないような状態でした。ペースをつかむのも苦労しました。



打ち込みをする遠田選手

ー地元・静岡でのマスターズでしたがー

両親も観戦していたのですが、試合の待ち時間が長く、1・2回戦が終わった段階で帰ってしまったのです。でも、そのことがかえってリラックスできたのかもしれない。

ー決勝戦は6－1だったようですねー

決勝の相手は準決勝で昨年の優勝者から勝っているのです。その昨年の優勝者に菊地先生（山形県監督兼務）が話をしにいて、「（決勝の相手の）中段回し蹴りに気をつけて」というアドバイスをもらっていました。

決勝戦では先手を心がけ、相手の技を見切って試合ができました。菊地先生から中段逆突きで行くようにいわれて、ほぼ全て中段突きだったのではないかと思います。自分でも面白いほど決まりました。

ー今大会を通じてどんなことを感じていますかー

（山形県選手団の）先生方が非常に個性的で、でもみんなで後押ししてくれて本当に助けてもらいました。本間先生の笑顔・中村雄二郎先生の姿勢・大武先生・中村和道先生との会話、そして菊地先生のアドバイスと情報収集は素晴らしかったです。菊地先生には絶対の信頼を置いて試合ができました。

事前に県選手団としての練習会などがあれば、なお士気が高まってチームとしての団結を強めていけたのかと思いますので、来年以降はぜひ検討してほしいと思っています。

ー今後についてお聞かせ下さいー

来年以降も挑戦したい気持ちがあるのですが、娘も来年は高校生ですので、ぜひインターハイに出場させたいのです。ですから娘をバックアップすることを優先したいと思います。その上で余裕があればぜひ挑戦したいですね。



遠田選手と娘のゆかり選手